

サービス事業所の取り組み

「パーソン・センタード・ケアと徘徊をする方への援助の視点」の講義、「徘徊をする方を地域で支えるために」のテーマで事例検討会

葵会総合ケアステーション居宅支援事業所 星本 育美

第3回生活圏域事業所交流会を平成25年11月22日に西賀茂会館にて行いました。仕事を終えてからの時間設定でしたが、各事業所より69名の参加者で行うことができました。

講師に小規模多機能「きたおおじ」安野紀子氏を迎え、「パーソン・センタード・ケアと徘徊をする方への援助の視点」についての講義を受けたあと、「徘徊をする方を地域で支えるために」というテーマにそって、居宅介護支援より事例検討会を行いました。

近年、徘徊されるケースが増えています。どう支援していけば良いのか、グループワークにて意見を出し合いました。参加された方々からは、「検討会での内容をIさん、娘さんにフィードバックすることは素晴らしい実践である」「その人の視点、視野から考えていくことが必要」「ネットワークの大切さを学んだ」等の意見がだされました。

コメンテーターとして、京都民医連中央病院老人専門看護師長谷川さん、認知症の人と家族の会京都支部原田さんのお話を聞きました。専門的な話、実際に家族の支援を行っていた話など、大変参考になりました。

講義、コメンテータからの話、事例検討を通じて、今すべきことは何か、中核症状は何なのか、科学的に分析していくことも必要であるということを学ぶことができました。

今後、医療・介護・地域が連携し、徘徊が起こった場合、迅速に搜索組織を立ち上げ、一番関わりの深い事業所職員が重点地域を搜索するなど組織ごとに係わるのが望ましいということ。又、ケアプランに載せ問題の共有化を行っていくことも必要であるということ。短時間ではありましたが、徘徊の方を支えるという点において、視点・視野が広がり、大変有意義な勉強会になりました。



第4回「在宅→老健→施設とこの地域で暮らし続けたKさんの事例」を通じて地域包括ケアを考える！

こぶしの里サテライト今宮 中尾 朱里

平成25年度、最終となった学習会では「在宅→老健→施設とこの地域で暮らし続けたKさんの事例」を通じて地域包括ケアについて、みんなでグループワークも交えながら考え、意見を述べ合いました。

最初に、特養や老健、グループホームや小規模多機能型居宅介護事業所などの紫竹・大宮・待鳳学区にある福祉施設や事業所の紹介と、その特徴についての説明を行いました。その後、「にしがも舟山庵(特養)」の上川さんにKさんの事例について、紹介と発表していただき、「おおみや葵の郷(老健)」の藤岡さんからも事例の補足説明をして頂きました。

Kさんはご自分が生まれ育った家や町での生活を望まれ続けましたが、在宅での生活が徐々に困難になり、老健を利用しておられました。色々な葛藤も抱えておられましたが、最終的にはご自分で決断し、老健から特養に入所されました。

特養入所に否定的な気持ちを持ったままの方や、自分が大切にしていた過去をきっぱり諦めるような気持ちで入居される方がある中で、Kさんは自己決定のもと特養に入居されました。

どうして入居する気になられたのかという問いに「きれいな施設、親切で男前のスタッフ」など様々なことを述べておられましたが「遠く離れた所なら入っていない」という言葉が印象的でした。

そこで、グループワークでは「同じ地域で過ごす、住み続けるメリット」や「自分だったらどうしたい?」というテーマでグループに分かれて意見を出し合いました。メリットでは「安心感がある…知り合いや家族がいる。思い出のある場所で暮らせる。見慣れた風景がある。もともと自分の知っている施設だったら安心、知人や家族が面会に来やすい、地域の情報が入りやすい」などの意見がある一方、自分なら「近いのはいいが、近すぎるのはちょっと…」とか「インターネットが出来ればどこでも良い」という意見もありました。また、テーマのこと以外に「民生委員さんや老人福祉委員の方のお仕事の内容を聞くことが出来て良かった」という声もありました。

地域で暮らし続けることの意義を考えると同時に、時代と共に地域に対する概念も変わりつつあると感じた学習会でした。そして地域の繋がりを、より有機的なものにしていくために、私達、居住型の施設が出来ることを、今後も模索し実行していきたいと思いました。

肩たたき

—大切な命を救います—

大澤医院 大澤 さおり

今回は《しちくほうかつ》読者の皆様にぜひ知っていただきたい、おうちで出来る救急蘇生法について書かせていただきます。

この頃、地域行事や消防署などで救命救急実習など広く行われていますね。参加されていますか？自分には関係がないからとか、行ってもヒトの迷惑になりそうだからと躊躇されている方、是非一度行ってみてくださいね。それでも行くのがおっくうだったり、大勢の前に出るのが苦手だったりする方は、今からのお話を頭の片隅に入れておいてください。

急に人が倒れて意識がなくなっていた時、たいていの方は「大丈夫か」などと声をかけて反応がなければ、救急車に電話をかけます。そのあとは、表に出てみたり家に入って、また「起きとるか」とか声をかけたり、そのあたりをうろうろして救急隊が来るのをただひたすら待っているのではないでしょう。

そのうろうろの時間が、倒れた人のそれからを大きく変える可能性があるのです。

心臓が止まって3分たってから蘇生したら半数が生き残れるが、5分たったらほとんど生き残れないと言われてます。意識がなく10秒間、見ても聞いても呼吸が止まっていると思われる人がいたら、すぐに胸の真ん中を押し始めましょう。

「胸の真ん中ってどこやいな。」と思われる方、倒れてる人をおおむけにして、おっぱいとおっぱいのちょうど真ん中に両方の手のひらを置いてください。そうそう。



次に、歌を歌いましょう。

「え？歌でっか？」

はいはい、みなさんご存知の《肩たたき》です。

《かあさん、お肩をたたきましょ、たんたんたんたんたんたん》このリズムが胸骨圧迫といわれる蘇生法のリズムです。1分間に100回以上と言われても、とっさのときには頭は大混乱。ですから《肩たたき》を歌いながら、両手を重ねて腕をまっすぐして胸が5皿沈むくらい一生懸命押しあげましょう。

救急車をまつ5分の間に、あなたの大切な人の命をつなぎましょう。

日本医師会の救急蘇生法のホームページなどに詳しくわかりやすくなっていますので、ご参考にしてくださいね。



ひろがっています！ まちのつどいの場

北区社会福祉協議会

地域での人と人とのつながりが弱まっており、その中で孤立感や不安を抱える人が多くなっています。そのような中、気軽に集い、つながることができる「つどいの場」が北区でも増えています。ここでは、大宮・紫竹・待鳳学区にある「つどいの場」をご紹介します。

【大宮学区】

★みそのばし801広場

所在地：みそのばし801広場

(市バス1系統山ノ前徒歩3分)

活動日：毎週月・火・水・金曜日

利用条件：教室により、利用料あり

連絡先：495-0801



【待鳳学区】

★ひばりサロン

所在地：北区地域介護予防推進センター待鳳教室

(市バス下緑町徒歩1分)

活動日：月曜日 13時～15時30分／

火～木曜日 9時30分～15時30分

利用条件：特になし

連絡先：494-0323

★待鳳健康すこやか学級

所在地：待鳳地域文化センター多目的ホール

(待鳳小学校 北校舎1階)

活動日：毎月第1・3水曜日 10時～14時

利用条件：待鳳学区在住の75歳以上の一人暮らしの方

連絡先：441-1900(北区社会福祉協議会)

★地域サロンきたおおじ

所在地：地域密着型総合ケアセンターきたおおじ

(市バス大徳寺前徒歩7分・地下鉄北大路徒歩15分)

活動日：隔週の土・日曜日 11時30分～14時30分

利用条件：特になし

連絡先：366-8025



【紫竹学区】

みんなが集える★カフェふらっと紫竹★

所在地：紫竹児童館(市バス下岸町徒歩3分)

活動日：9月から毎月第3水曜日 午前中10時～12時

利用条件：おおむね紫竹学区在住の方

子どもからお年寄りまで

オープンに向けて準備中です。

連絡先：441-1900(北区社会福祉協議会)

このほかにも、北区内では多くの「つどいの場」があり、人と人との新しい「つながり」が生まれる場になっています。